

平成24年度第1回大阪府都市計画公聴会の 公述人の意見に対する大阪府の考え方

公聴会において公述人から述べられた意見のうち、今回変更しようとする都市計画に関するものに対しての大阪府の考え方は次のとおりです。

○北部大阪都市計画道路の変更

公述人	都市計画案に係る意見の概要	意見に対する大阪府の考え方
A	<p>①本変更案については基本的に賛成である。</p> <p>いつまでも着手されない都市計画道路は、居住者に対して制約を非常に長い年月に渡って課すわりに、便益がない。また、道路を整備することによって、地価上昇や車の通行が容易になるといった便益もあるが、既存のコミュニティの破壊や平均走行速度も上がり、返って危険になる場合もある。</p> <p>また、名神高速道路や国道171号線が渋滞すると、西京高槻線に通過交通が流入してきて、麻痺状態に近いことになることがたびたびある。道路が整備されると、現状以上に住宅地に通過交通が流入することが想定される。</p> <p>これらを考慮すると、住民にとっても不利のほうが大きく、本件変更については基本的に賛成である。</p> <p>②代替機能が確保されていること、当該路線の固有の課題への対応については、本件区間において不適当である。</p> <p>既存の西京高槻線及び府道734号線は、道路幅員が非常に狭く歩道整備が一部に留まるなど、安全な空間であるとはとても言えない。全区間歩道を付与するのは、困難だと考えているが、特に危険な場所、学校周辺などについては、改善が必要である。当該路線固有の課題としてどういうふうな対応をされるのか伺いたい。</p> <p>府道734号線のJR交差部は、東海道線の架道橋を挟んで四差路となっており、水無瀬川の堤防沿いの道路から非常に急なカーブ且つ勾配で下って合流しているにもかかわらず、歩道が前後で途切れており、この交差点の北側には通学路が存在し、児童等の滞留するスペースも少なく、非常に危険な状況である。また、東海道線の架道橋については、幅員も狭く交互通行となっており、大型車や消防車などは若山台のほうを通り、2キロ以上の大幅な迂回を強いられている。また、島本町には水無瀬鶴ヶ池線以外、大型車がJRを跨いで川側から山側へ行ける道路がない状況であり、とても代替機能が確保されているとはいえない。</p> <p>また、本件箇所を個別に改良する場合、JR東海道線の架道橋やJR東海道線の水無瀬川橋梁も含めて改修しないと改良できない場所であると考えられ、非常に大規模な事業になると思われる。こういった事業を町単独でやることは困難であり、府が責任を持ってやっていただきたい。</p> <p>このような箇所では、単に都市計画道路を廃止するのではなく、必要な代替整備の計画を策定した上で廃止していただきたい。</p>	<p>本変更案については、今後の人口減少に伴う社会情勢の変化を踏まえ、平成23年3月に策定した「都市計画（道路）見直しの基本方針」に基づき評価を行いました。その結果、将来的に交通量の増加が見込めないものの、交通安全機能の必要性はあると考えています。しかしながら、すでに沿道に住宅が建ち並び、水無瀬川を横断する大規模構造物等により事業費が膨大となることなどから実現性が低いと評価し、廃止するものであります。</p> <p>ご指摘の現道の歩道未整備区間への対応につきましては、道路管理者として地元、島本町と現道対策について調整してまいりたいと考えております。</p> <p>また、市街地内の通過交通を解消するため、国道171号の機能強化に向けて、引き続き国と協議を行ってまいります。</p> <p>なお、島本町域のJR東海道線を挟んだ山側と国道171号を結ぶ交通処理については、将来的に交通量の増加が見込めないことから、現道の府道柳谷島本線（府道734号）と町道東大寺水無瀬鶴ヶ池幹線（水無瀬鶴ヶ池線）で対応するものと考えており、JR東海道線の架道橋や水無瀬川橋梁を含めた大規模な改修の予定はありません。</p>